



作成日：1993年 4月 1日
改訂日：2010年12月 8日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名

NPE-300

会社名

三菱ガス化学(株)

住所

東京都千代田区丸の内2-5-2

担当部門

機能化学品カンパニー

担当者(作成者)

無機化学品事業部 無機営業グループ

電話番号

(03) 3283-4759

FAX番号

(03) 3287-2643

メールアドレス

msdsmuki@mgc.co.jp

緊急連絡電話番号

山北工場 (0465) 75-1111
(0465) 75-1115 (夜間・休日)

整理番号

1-06-0801-7

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類

区分外

可燃性/引火性ガス

分類対象外

可燃性/引火性エアゾール

分類対象外

支燃性/酸化性ガス

分類対象外

高压ガス

分類対象外

引火性液体

分類対象外

可燃性固体

区分外

自己反応性化学品

分類対象外

自然発火性液体

分類対象外

自然発火性固体

区分外

自己発熱性化学品

区分外

水反応可燃性化学品

区分外

酸化性液体

分類対象外

酸化性固体

区分3

有機過酸化物

分類対象外

金属腐食性物質

分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)

区分4

急性毒性(経皮)

区分外

急性毒性(吸入:気体)

分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気)

分類できない

急性毒性(吸入:粉塵)

区分外

急性毒性(吸入:ミスト)

分類対象外

皮膚腐食性/刺激性

分類できない

眼に対する重篤な

区分2B

損傷性/眼刺激性

呼吸器感作性

区分1

皮膚感作性

区分1

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

分類できない

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器毒性

区分3(気道刺激性)

(単回暴露)

特定標的臓器毒性

分類できない

(反復暴露)

吸引性呼吸器有害性

分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)

区分外

水生環境有害性(慢性)

区分外

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険有害性情報	危険
注意書き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災促進のおそれ；酸化性物質 ・ 飲み込むと有害 ・ 眼刺激 ・ 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ ・ 中枢神経系の障害のおそれ ・ 呼吸器への刺激のおそれ
[予防策]	<p>使用前に製品安全データシート（MSDS）に記載された全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 ・ 衣類/混触危険物質/可燃物から遠ざけること。 ・ 可燃物/混触危険物質と混合を回避するために予防策をとること。 ・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 ・ 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。 ・ 粉塵/蒸気を吸入しないこと。 ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 ・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 ・ 取扱い後は手/顔をよく洗うこと。
[対応]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断/手当てを受けること。 ・ 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。 ・ 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。医師の診断/手当てを受けること。 ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断/手当てを受けること。 ・ 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。医師の診断/手当てを受けること。 ・ 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。 ・ 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
[保管]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 ・ 施錠して保管すること。
[廃棄]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容物/容器を廃掃法などの法規制に従って廃棄すること。
3. 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	過硫酸ソーダ SODIUM PERSULFATE
別名	ペルオキシソニ硫酸ナトリウム
化学特性（化学式等）	NaSO ₃ -0-0-O ₃ SNa
CAS番号	7775-27-1
濃度又は濃度範囲（含有量）	過硫酸ソーダ 93～98%（標準値97%）
官報公示整理番号	
	化審法：1-1131
	安衛法：（公表）
TSCA登録	収載
EINECS番号	231-892-1
DSL (NDSL) 登録	収載
AICS登録	収載
4. 応急措置	
吸入した場合	<p>この製品及び分解により発生した粉塵、蒸気等を吸引した場合は、速やかに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断/手当てを受ける。</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合は医師に連絡する。</p>
皮膚に付着した場合	<p>直ちに汚染された衣服や靴を脱ぎ、多量の水と石鹼で十分に洗い流す。また、医師の診断/手当てを受ける。</p>

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすぎ直ちに水を飲ませて嘔吐させ、速やかに医師の手当てを受ける。被災者に意識がない場合は、吐かせようとしたり、口から物を与えたりしてはならない。医師の診断/手当てを受ける。
気分が悪い場合	医師の診断/手当てを受けること。
5. 火災時の措置	
消火剤	放水するか、粉末、炭酸ガス消火器を使用する。
使ってはならない消火剤	特になし
火災時の特定の消化方法	製品は不燃性であるが、周辺火災で製品が加熱され、分解反応を起こさないように、安全な場所に移す。
消火を行う者の保護	保護具を着用して風上から作業する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	保護具を着用し風上から作業する。
環境に対する注意事項	河川等への直接排出は避けること。
封じ込め及び 浄化の方法・機材	できるだけ速やかにかき集めて回収する。異物が混入すると分解の危険性があるので、水に溶解し「廃棄上の注意」の項目に従って廃棄する。
二次災害の防止策	決して元の容器に回収しない。回収残分は多量の水で洗い流す。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
局所排気・全体廃棄	換気が十分でない場合には、呼吸用保護具又は局所排気装置等を設置する。
注意事項	熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。 禁煙衣類/混触危険物質/可燃物から遠ざけること。
安全取扱い注意事項	異物(酸、アルカリ、重金属、有機物、ゴミ等)の混入を避ける。使用前に製品安全データシート(MSDS)に記載された全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
	可燃物/混触危険物質と混合を回避するために予防策をとること。
	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
	粉塵/蒸気の吸入をしないこと。
	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
	環境への放出を避けること。
	汗、又は濡れた身体での取扱いを避ける。
保管	
技術的対策	異物が容器に混入しないようにする。
	可燃物やこの製品の分解を促進する物質と混合貯蔵してはならない。
適切な保管条件	直射日光を避け、水に濡れないようにして容器を密閉しておく。
	風通しの良い場所でこの製品が高温にならない場所で保管する。
	破袋等によりこの製品が漏出した場合は、できるだけ速やかにかき集めて回収し、「廃棄上の注意」の項に従って廃棄する。
	取扱い及び保管にあたり、この製品の分解を促進する物質を使用してはならない。
	保管場所には施錠等をする。
安全な容器包装材料	特に限定されない
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	取扱場所の近くに、手洗い、洗顔設備を設ける。
	屋内作業場での使用時は局所排気装置等を設置する。
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	
日産衛 ('09年版)	: 設定されていない。
ACGIH ('09年版)	: 時間加重平均暴露限界 (TLV-TWA) 0.1mg/m3 (過硫酸ソーダ) *5)
保護具	
呼吸器用の保護具	防塵マスク
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	保護眼鏡 (ゴーグル)
皮膚及び身体の保護具	作業衣、安全帽(ヘルメット)、安全靴

適切な衛生対策	汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。 この製品を使用する前に、飲食又は喫煙をしない。 取扱後は、手洗い、洗顔を十分に行う。
9. 物理的及び化学的性質	
外観 (物理的状態, 形状, 色)	白色粉末状固体
臭い (及び臭いの閾値)	微刺激臭
pH	知見なし
融点/凝固点	292℃
沸点、初留点と沸騰範囲	知見なし
引火点	なし
自然発火温度 (発火点)	なし
燃焼又は爆発範囲の 上限/下限	なし
蒸気圧	知見なし
蒸気密度	知見なし
蒸気速度	知見なし
比重/(嵩)密度	知見なし
溶解性	70.2g/100g水(20℃) (過硫酸ソーダ)
オクタノール/水分配係数	知見なし
分解温度	知見なし
その他のデータ	
	酸化性： 水に溶解して強い酸化力を示す。
10. 安定性及び反応性	
安定性	粉末で適切な保管を行った場合、純分の低下率は年間1%以下である。*2)
危険有害反応可能性	可燃物と接触すると発熱する。塩素酸塩又は過塩素酸塩と混和すると常温、湿気の下で爆発する。*2)
避けるべき条件	アルミニウム等の金属粉と混和すると、湿気の下で燃焼する。*2) 硫黄、有機物と混和した時、湿気の下で、衝撃、加熱等で燃焼する。*2)
混色危険物質	塩素酸塩又は過塩素酸塩、アルミニウム等の金属粉
危険有害な分解生産物	加熱により、亜硫酸ガス、酸素などを生じる。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口マウスLD ₅₀ : 475mg/kg (過硫酸ソーダ) *3) 経口ラットLD ₅₀ : 920mg/kg 及び895mg/kg (過硫酸ソーダ) *6) 静脈内ウサギLDL ₀ : 178mg/kg (過硫酸ソーダ) *1) 経皮ウサギLD ₅₀ : 10000mg/kg以上 (過硫酸ソーダ) *6) 吸入ラットLC ₅₀ : 191.7mg/L以上(1時間) 47.93mg/kg以上(4時間) (過硫酸ソーダ)*6) 吸入ラットLC ₅₀ : 5.1mg/L以上*6)
皮膚腐食性/刺激性	皮膚に長時間接触すると皮膚炎や湿疹を発生することがある。*2)
目に対する重篤な損傷 /眼刺激性	ウサギを用いた試験において軽度の眼刺激性が認められた。*6)
呼吸感作性/皮膚感作性	吸入暴露により喘息症状が誘発されたとの症例報告がある。*6) Patch testにて陽性反応が認められた、またモルモットに対しての Optimization Test。にて30%以上が陽性反応を示した。*6)
生殖細胞変異原性(変異原性)	過硫酸ソーダについては、使用組織は不明であるが、in vivo変異原性試験であるマウスを用いた小核試験において陰性の結果 (NICNAS, 2001) がある。しかしながら、他の含有成分の知見がないため、製品として分類できないとした。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	マウスを用いた吸入暴露試験において気道刺激性を示す呼吸の変化が認められた。
12. 環境影響情報	
生体毒性	魚毒性： ヒメダカ 96時間LC ₅₀ >100mg/L *6)
残留性/分解性	知見なし
生体蓄積性	知見なし
13. 廃棄上の注意	内容物/容器を廃掃法などの法規制に従って廃棄する。

残余廃棄物 水に溶解し、還元剤（ハイポ、重亜硫酸塩等）の酸性溶液で反応させた後、中和し排水が排水処理基準に適合していることを確認のうえ大量の水で希釈して廃棄する。
 汚染容器・包装 又は、産業廃棄物として専門業者に処理を委託する。
 付着物を除去後、処理する。付着物は残余廃棄物と同様の処理を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : クラス5.1(酸化性物質)

国連番号 : 1505

容器等級 : III

国内規制

陸上輸送 一般貨物として取り扱えるが、運搬に際しては袋に漏れないことを確かめ、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。分解を促進する恐れのあるものとの混載を避け、加熱、摩擦、衝撃を与えない。

海上輸送

容器 : 船舶安全法 個別輸送（危険物、酸化性物質類）（容器等級III）で規定する容器を使用し、容器表示を行う。

積載方法 : 旅客船及び旅客船以外の船舶の甲板上積載、甲板下積載。

航空輸送

航空法（爆発物等、酸化性物質）（容器等級III）

容器 : 航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示に規定する容器を使用し、容器表示を行う。

隔離要件 : 火薬類(隔離区分がSのものを除く)、引火液体性、自然発火性物質、その他の可燃性物質、腐食性物質と隔離する。

緊急時応急措置指針番号 : 140

15. 適用法令

化学物質排出把握 : 令別表第1、第1種指定化学物質、第395号

管理促進法 ペルオキシニ硫酸の水溶性塩

労働安全衛生法 : 酸化性の物

法第57条の2 通知対象物質（ペルオキシニ硫酸ナトリウム）

船舶安全法 : 危険物告示別表第1 酸化性物質類

航空法 : 爆発物等告示別表第1 酸化性物質

消防法、毒物及び劇物取締法の適用はない。

16. その他の情報

文献

*1) REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCES : NIOSH

*2) 危険物 毒物 処理取扱マニュアル (海外技術資料研究所)

*3) 神奈川県衛生研究所テスト

*4) 産業医学 31巻 (1989)

*5) ACGIH 2000

*6) NITE 独立行政法人製品評価技術基盤機構

記載内容の取扱い

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

注意事項は通常の手扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

また、GHS分類は国内の基準に従った分類であり、海外での基準に従った分類とは一部で異なる場合があります。